

新型コロナウイルスパンデミックが社会に与えた影響の一つとして、フードデリバリーサービスの利用拡大が挙げられる。特に、私がアルバイトをしているピザ屋では、自社配送と併せてフードデリバリーサービスを利用した注文が増加している。この経験から、複数のデリバリーサービス間で消費者がどのように選択をしているのか、その基準に何が影響しているのかに興味を持ち、研究を行うきっかけとなった。

デリバリーサービスの選定にあたり、私自身もどのサービスを利用すべきか迷う瞬間があり、同僚や友人も同様の疑問を抱えていることが多い。このような実体験を基に、各サービスの特性を比較分析し、消費者が直面する選択の難しさを解消したいと考えている。

本研究の主な目的は、複数のフードデリバリーサービスを比較分析し、消費者がどのサービスを選ぶべきかについての明確な基準を提供することである。それにより、消費者が最大の満足感を得ることができるサービス選択を支援する。

比較の対象となる主要なフードデリバリーサービスはUber Eats、ウォルト、出前館などで、これらのサービスの売上、サービス品質、消費者のレビュー、料金体系を分析する。

研究方法としては、各サービスのウェブサイトやアプリを通じて集められる公開情報(売上、料金体系、利用者の評価)を基に分析を行う。また、消費者からの直接的なフィードバックを得るためのアンケート調査を実施し、実際の利用者の声をデータに反映させる。政府発表の白書や市場調査レポートも参考にし、業界全体の動向を把握する。

この研究から、各デリバリーサービスの利点と欠点が明らかになり、消費者が自身のニーズに最も合致したサービスを選ぶための具体的な指針を提供することを目指す。最終的には、これらの分析結果をフード提供業者に公開し、ユーザーがフードデリバリーサービスを選択する際の要因を理解するための情報を提供する計画である。